

令和5年度 幼保小教育交流事業 瀬谷地区活動報告

令和6年2月作成

～子どもたちの育ち、学びを豊かにつなぐ、支える～

年間活動報告

令和5年5月11日

☆総会

☆第1回ブロック別研修会

令和5年6月22日

☆全体研修会


☆園長・校長会

令和5年11月16日

☆健やか子育て講演会

令和5年12月2日

☆第2回ブロック別研修会



A ブロック

阿久和小学校

原小学校

三ツ境小学校

阿久和保育園

鳩の森愛の詩瀬谷保育園

ほうゆう保育園

グローバルキッズ三ツ境園

原幼稚園

みなみ幼稚園

三ツ境幼稚園

まこと幼稚園

横浜隼人幼稚園

二ツ橋あいりん幼稚園

① 交流園 みなみ幼稚園

② 交流のねらい

小学校 園児との交流を通して小学生として、年下の子にやさしく接しようとする態度を育てる。
交流を通して自分や友達の成長に気づくとともに進級する自覚をもつことができる。

幼稚園 実際に小学校へ行って見学し、児童と関わり幼稚園と小学校の違いを知る。

小学生との交流会を通して、就学に対する不安を取り除き小学校生活に興味をもつ。

③ 活動の様子

＜6月 20日 1年生がみなみ幼稚園を訪問。＞

園庭での自由あそびや体操に1年生が参加。その後、部屋の中で学校クイズを出したり、園庭で一緒に玉入れをしたりして交流を深めた。



＜11月 7日 5年生がみなみ幼稚園を訪問。＞

次の交流会の計画を立てるため、好きなものを聞いたり遊んだりした。いっしょにいろいろな活動をして、園児と交流を深めた。



＜1月 16日26日 幼稚園年長組が2日に分けて阿久和小学校に来校。＞

5年生が計画した交流会を実施。1年生も参加して園児とおにごっこをして遊んだり、学校案内をしたりした。ランドセルを背負わせたり、教科書を見せたりして学校が楽しいところであることを伝えようと取り組んだ。1年生が図工の学習で作成したプレゼントを一人ひとりにわたし、園児からもクラスにプレゼントをもらった。



グループで自己紹介



鬼決めじゃんけん



学校案内



ランドセル体験

④ ふりかえり

今年度は、1年生も幼稚園へ行く体験を取り入れたので、子どもたちは、より親しみをもって進んで交流をすることができた。

園児は、教室を見学したり1年生の教科書を見たりして、楽しんでいて、プレゼントも大事そうに家まで持って帰り、就学前の貴重な体験となった。1年生は、学校に来た園児に喜んでもらえるように「自分から話しかけたよ。」「鬼ごっこで優しくタッチしたよ。」とお兄さんお姉さんとして接しようがんばっていた。5年生は、事前に園児の様子を知り、楽しい交流会にするという目的をもって、上級生として計画的に活動しようとする事ができた。

園児は入学を楽しみにする姿が見られ、児童は、相手を思いやる気持ちが言葉や行動に表れたり、園児の様子と比べて自分の成長を感じたりしたように思う。職員にとっても学校、幼稚園の様子が見られる良い機会となった。

今年度で阿久和小は閉校である。今までありがとうございました。

原小ブロック

① 交流園

原幼稚園、横浜隼人幼稚園、阿久和保育園、ほうゆう保育園

② 交流のねらい

幼稚園や保育園で生活していた子どもが小学校に入学すると、遊びを中心とした幼児期の学びから、教科や時間に区切られた小学校の学びへ学習面の変化だけでなく、給食や掃除の当番などの新しい活動も加わり、生活が大きく変わる。また、子どもの人数が多く、校舎、校庭が大きくなるので生活する場も変わる。小学校の生活に移行する前に、小学校はどのような場所なのか、活動はどのようなものなのか、持ち物はどのようなのかなどをあらかじめ体験することは、園児が、小学校の生活に安心して向かうためのひとつの手立てとしてとても大切なことと考える。

③ 活動の様子

○ 職員の連携

・ 交流会の計画・立案

小学校の入学までに、園児たちに知ってもらいたいこと、身に付けてもらいたいことなどを相談し、計画・立案を行った。



「交流会をはじめます。」



「いい天気の下 集合！」

○ 子どもたちの交流

・ 1年生と園児の活動 2回実施（10月、11月、1月）

児童と園児がペアになり活動をした。

① 小学校の校庭での遊具遊びによる交流

ジャングルジムなどの校庭の遊具やフラフープ、ドンじゃんけんなどの遊びを行った。



「ジャングルジム 大きい！」



「フラフープは
こうやるといいよ」

② 生活科の昔遊び体験と教室体験

生活科で扱った昔遊びを行った。
教室体験は、教科書の入ったランドセルを背負ったり、給食や掃除の動画を見たり、校舎内の探検を行ったりした。



「ランドセルは重い？軽い？」



「だるまおとし 楽しい！」

④ ふりかえり

<職員にとって>

園と小学校の職員同士で顔を合わせて交流会の計画を話し合うことで、入学を前にした園児のニーズを知ることができた。また、職員同士の人間関係もできた。

<子どもたちにとって>

1年生の児童

園児が小学校に来るということで、先輩としての意識をもつことができた。昔遊びの練習を頑張り、道具の準備も積極的に行った。交流会の当日は、園児たちに喜んでもらおうと、一生懸命に教えたり、手伝ったりしていた。園児をフォローすることに喜びを感じている様子が見られた。

園児

小学校の校舎や校庭で活動することで、小学校という場を、また、ランドセルの体験や給食や掃除の動画で、小学校での生活を垣間見ることができた。交流会を楽しんでいたのも、小学校を楽しい場所として、入学に向け前向きな気持ちをもてたと考える。

<次年度に向けて>

今年度は、コロナ禍からの脱却が5月ということもあり、交流計画のスタートが遅れた。そのため、小学校を訪問する交流会が2回にとどまり、園への交流ができなかった。次年度は、交流計画の打合せを早くスタートし、3回の交流を行いたい。また、職員同士の人間関係もできているので、より深い話し合いを行い、園児がスムーズに入学できるように内容を充実させたい。

三ツ境小ブロック

① 交流園

二ツ橋あいりん幼稚園	1-2交流	1月30日(火)
鳩の森愛の詩瀬谷保育園	1-3交流	2月 8日(木) 予定
三ツ境幼稚園	1-1交流	2月14日(水) 予定
まこと幼稚園	1-2交流	2月29日(木) 予定

② 交流のねらい

幼保と小学校との接続期のカリキュラムの実践

- ・ 保育園の園児の入学に対する不安を解消し、望ましい人間関係の育成を図る。
- ・ 保育園の園児との交流を通して、伝えたいことを考えたり、自分のことについて考えたりし、他者と関わることのよさや、1年間でできるようになったことに気づき、小学生としての自覚をもって、年下の子に優しく接しようとする態度を育てる。

③ 活動の様子

1月30日(火) 三ツ境小学校

二ツ橋あいりん幼稚園 園児15名、三ツ境小学校1年2組 児童30名

【活動内容】

三ツ境小学校の学習や給食、6年生との交流などを、動画や写真を用いて紹介した。ランドセルを背負わせてあげて校内を案内し、小学生気分を味わってもらった。最後には、園児にメダルのプレゼントを贈り、小学校生活を楽しみに待ってほしいという願いを届けた。



【子どもたちの様子や声】

- ・ 小学生は「よろこんでくれてうれしかった」「ちょっと大変だった」など、園児の反応に喜びを感じる一方で、お世話の大変さも実感できた。「教えてあげたい」という気持ちを強くもって交流していた。
- ・ 園児は「三ツ境小学校のことがよくわかった。」「小学生の発表が楽しかった。」と嬉しそうにしていた。

④ 振り返り

【子どもや職員にとっての学び】

普段は一番下の学年でお世話してもらう側の子どもたちが、初めて年下の子と触れ合う体験ができた。数日前から「園児のみなさんに笑われないようにしないと」や「園児のみなさんに楽しんでもらいたい」などの言葉が聞かれ、どの子もお兄さんお姉さんとしての自覚を高められたと思う。

次年度の交流時期も今年度と同じ時期にしたい。園児にとっては、小学校の様子が分かり、小学校に向けた準備ができ、小学生にとっては、生活科のカリキュラムとからめ、自分たちの成長を感じ、もうすぐ2年生になるという自覚をもつためによいかと思う。





Bブロック

相沢小学校

二つ橋小学校

相沢幼稚園

あづまの幼稚園・あづまのナーサリー

わらべ細谷戸保育園

二ツ橋保育園

瀬谷愛児園

シャローム三育保育園

Gakken ほいくえん ニツ橋

保育室「ネスト」

相沢小学校

①交流園

相沢幼稚園、瀬谷愛児園、わらべ細谷戸保育園、相沢小学校

②交流のねらい

- ・幼稚園、保育園の年長児との関わりを通して、年下の子に必要とされる喜びを実感すると共に、思いやりをもってふれあうことができるようにする。
- ・小一プロブレムの解消に向けて、年長児が入学後の学校生活を安心して迎えられるような支援をする。
- ・教職員同士が情報交換をしたり、交流をしたりすることによって、連携を強め、互いの環境を理解できるようにする。

③活動の様子

交流日	交流した園・交流学年	交流内容
10月30日(月)	相沢幼稚園 瀬谷愛児園 わらべ細谷戸保育園 相沢小学校(第5学年)	<p>○来年度、新1年生として入学する年長児のお世話を担当する5年生が交流した。 「おにいさん、おねえさんとなかよくなろう！」</p> <p>・ゲーム(どんじゃんけん) ・絵本の読み聞かせ</p>   <p>・チューリップの球根を植えよう</p>  
1月30日(木)	相沢幼稚園 瀬谷愛児園 わらべ細谷戸保育園 相沢小学校(第1学年)	<p>○年長児と、1年生が交流した。 「相沢小学校へようこそ！」</p> <p>・ランドセルを ・教科書を見てみよう</p>   <p>・絵本の読み聞かせ ・感想の発表</p>  

④ふりかえり

- ・5年生との交流では、5年生が計画したゲームで楽しく交流することができた。年長児たちは園に帰ってからそのゲームを自分たちで楽しむ様子が見られた。
- ・絵本の読み聞かせでは、5年生が年長児に一生懸命読み聞かせをする姿が見られた。年長児の中には、集中して聞くことが難しい園児もいたため、児童への事前指導でその点を伝えておく必要があると分かった。
- ・年長さんに楽しんでもらえるように意欲的に計画・実施することができた。1年生はこれまでの学校生活での経験を生かし、年長児を楽しませてあげようと様々な活動を考える姿が見られたのが良かった。
- ・活動後の振り返りでは、年長児が「楽しかった」「1年生と一緒に遊べてよかった」と話す姿が見られた。
- ・実際に小学校で活動することで、年長児も小学校の生活に対するイメージを具体的にもつことができた。

二つ橋小ブロック

① 交流園

二つ橋保育園・シャローム三育保育園・Gakken ほいくえん二つ橋
保育室「ネスト」・あづまの幼稚園

② 交流のねらい

- ・園児との交流を通して思いやりの心を育み、交流を深めることで来年度の異学年交流を円滑に進める。
- ・園児の入学に対する不安を解消し、学校は楽しい場所だというイメージをもてるようにする。

③ 活動の様子

【1年生との交流（2月実施予定）】



① 1年生体験

- ・教室に入り、教科書やお道具箱を見たり、ランドセルを背負ったりします。

② 学校探検

- ・保健室や給食室などの1年生になったらすぐに使う教室を中心に、1年生の説明を交えながら学校探検します。

③ ぴよぴよさん

- ・緊張をほぐし、楽しんでもらうために短時間のレクをします。

【5年生との交流】



① チューリップを植える

- ・園児とペアを組み、一人ひとりチューリップの球根を植えました。


② ミニゲーム

- ・二つ橋小の〇×ゲーム
- ・だるまさんの1日
- ・来年度のペア学年になるため、仲を深めるためにレクを取り入れました。

④ 振り返り

5年生は、交流を通して相手のことを考えて接することを学び、来年度最高学年として1年生をリードするという自覚を持つことができました。1年生も、昨年度自分たちが同じように小学校に行った事を思い出し、楽しんでもらえるように工夫して活動しています。来年度は1つ学年が上がり、お姉さんお兄さんになるというイメージを具体的にもてるようになってきています。

幼稚園、保育園の方からは「球根を植えるだけでなくミニゲームを行うことで、楽しむことができたり、親しくなったりすることができた。」という声がありました。引き続き、児童と園児が楽しみ、そして互いを思いやりながら、成長のきっかけとなるように交流をしていきたいと思ひます。



C ブロック

大門小学校

上瀬谷小学校

瀬谷小学校

ゆたか保育園

横浜市中屋敷保育園

GENKIDS 瀬谷保育園

ティンクル瀬谷保育園

ネスト瀬谷保育園

ゆたか幼稚園

横浜さがみ幼稚園

大門小ブロック

① 交流園

よこはまさがみ幼稚園

GENKIDS 瀬谷保育園

ティンクル瀬谷保育園

② 交流のねらい（小学校）

- ・年下の子に優しく接しようとする態度と思いやりの心を育てる。
- ・園児との交流を通して、自分の成長に気づき、これからの成長へ向けて意欲的に生活しようとする意欲を育てる。

③ 活動の様子

11月下旬に GENKIDS 瀬谷保育園、12月上旬にティンクル瀬谷保育園を本校へ招待し、交流活動を行った。（1月下旬によこはまさがみ幼稚園と交流予定）

【交流内容】

次の活動を、3組→2組→1組の順に行った。

- (1) 園児は、15分間、1年生がつくった秋のおもちゃで遊ぶ。
- (2) 最後の5分間、1年生は、つくったおもちゃのプレゼントを園児に渡す。
（感想、お礼、あいさつ）
- (3) 1年生が昇降口に並んで見送りをする。



④ ふりかえり

- ・児童は、園児が来ることをとても楽しみにしていて、おもちゃをつくっているときも、園児が楽しめるおもちゃにするには、どうしたら良いか、意識してつくっていた。
- ・園児が来てからは、「くじびきやる？」と声をかけたり、やり方を優しく教えたり、見本を見せたりしていた。
- ・1年生は、進級を意識する時期に、園児は、就学時健診を終えたばかりの入学を意識する時期にできたことがよかった。しかし、12月上旬は、保育園や幼稚園のお遊戯会が予定されていて、忙しい中、来校していただくことになってしまったため、もう少し早い時期に交流した方がよかったと思った。

① 交流園

中屋敷保育園

② 交流のねらい

- ・保育園の園児との交流を通して、小学生としての自覚をもち、年下の子に優しく接しようとする態度を育てる。
- ・保育園の園児の入学に対する不安を解消し、望ましい人間関係の育成を図る。

③ 活動の様子

9月 はじめましての会

1年生が中屋敷保育園の年長児と体育館で「一年間よろしくね」のあいさつをした後、一緒にだるまさんが転んだや長縄をして遊んだ。

お兄さんお姉さんとして学校のことを伝えたいな、これから仲良くしていきたいなという気持ちをもつことができた。

10月 運動会練習見学

保育園児が来校し、1年生の運動会のダンス練習を見学した。「保育園児にかっこいいダンスを見せたい、教えたい」という気持ちをもつことができた。

11月 1年生体験

保育園児が来校し、1年生の教室の様子を見学した。保育園児が実際に座席に着き、教科書を一緒に音読することができた。その後、中休みは校庭で遊び、「もっと仲良くしたいな」という気持ちをもつことができた。

12月 保育園の友達とどんぐりフェスティバル

保育園児が来校し、1年生が作ったどんぐりのおもちゃのお店を回り、遊んだ。保育園児がどんなお店だと楽しいかなと考えて作ったどんぐりのお店を、保育園児が楽しんでいる様子を見て、1年生は喜んでた。その後、5年生とも交流を行い、来年は最高学年として、新1年生をサポートしてあげたいという思いをもつことができた。



1月 上瀬谷小学校へようこそ～待っているよ～

5年生が、「中屋敷保育園の友だちが「上瀬谷小に行くのが楽しみ。早く入学したい。」と思えるような時間にしよう」というめあてをもって、校内探検やゲームを考え、実行する予定である。

④ ふりかえり

1年生は一年間継続して交流を続けることで、少しずつ仲を深めて、年下の友だちを思いやる気持ちが育ってきた。5年生は最高学年になることへの実感がまだ伴わない中、これをきっかけに6年生としての自分のイメージを具体的に想像して、行動し、意欲を高めることができるように育てていく。保育園児は、交流を通して学校が楽しいところだということや、学校の友だちが優しいことを感じて、1年生に向けて期待をもつことができた。

①交流園

ゆたか幼稚園 ゆたか保育園 瀬谷中央保育園 瀬谷第二保育園
さがみ幼稚園 ティンクル瀬谷保育園 GENKIDS 保育園 ネスト瀬谷保育園

②交流のねらい

年長の子どもたちにとって、小学校は未知の場所であり、期待もあるが、不安も大きい。どんな場所なのか、何をするのか、どんな人がいるのか……。知らないことばかりなので緊張も大きい。小学校に通うのが楽しみになるように、入学前に小学校に行き、お兄さんお姉さんと触れ合うことで、年長の子どもたちが安心できると考え、1年生と5年生との交流をすることにした。

また、1年生は、幼稚園・保育園の園児との交流を通して、小学生としての自覚をもち、年下の子に優しく接しようとする態度を育てたい。5年生は来年度6年生として新一年生を迎える気持ちを高めていきたい。

年長の子どもたちが、安心して小学校に入学できるように、また保護者も安心できるように、園のアプローチカリキュラム、小学校でのスタートカリキュラムを中心に情報交換をし、スムーズな接続を目指したい。

③活動の様子

○職員の連携

- ・情報交換・研修会・保育参観・授業参観
- ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し

○子どもたちの交流

- ・1年生との交流（小学校のこと教えるよ）

せや小〇×クイズ、学校探検、椅子に座って本の読み聞かせなどを通して、小学校の楽しさを味わった。



- ・5年生との交流（学校探検）


来年度6年生になる小学生と一緒に学校探検をしてどんなものがあるのかを知る。優しいお兄さん・お姉さんがいることを感じて安心できるようにしたい。（2月交流予定）

④ふりかえり

お互いの様子を情報交換することで、子どもたちの交流が有効であるかを実感できた。園児や保護者の不安があることから、接続が大切であることを改めて感じる事ができた。

園児からは、交流することで、「楽しかった!」「小学校に行くのが楽しみ!」という声が聞こえたので実際に久しぶりに交流ができたことがとてもよかった。小学生にとっても年下と関わることがとても楽しみで本番も優しく接することができた。もうすぐ2年生になるという自覚をもつことができた。5年生も最高学年になる自覚をもつことができるきっかけとなると考える。

来年度も、就学時健診が終わってから、入学するまでの間のこの時期に交流をしていきたい。



D ブロック

南瀬谷小学校

瀬谷第二小学校

瀬谷さくら小学校

下瀬谷保育園

鳩の森愛の詩宮沢保育園

瀬谷中央保育園

横浜市瀬谷第二保育園

関東幼稚園

しらゆり幼稚園

南瀬谷小学校ブロック

① 交流園

- ・瀬谷幼稚園 宮沢保育園

② 交流のねらい

- ・園児が小学校に期待をもち、安心して入学を迎えられるようにする。
- ・小学校で学んだことを生かしたり、かかわりあったりするよさを実感する。
- ・コロナ禍で見直された教育活動を共有し、現状の園でのアプローチプラン、小学校のスタートカリキュラムを共有して、今の交流活動の在り方につなげる。

③ 活動の様子

○職員連携

- ・本年度の幼保小の年間の活動の見通しを幼稚園、保育園と小学校で共有。
- ・コロナ禍を経て変更になった園のアプローチプランを小学校と共有し、次年度以降につなげるようにした。

○子どもたちの交流

- ・1年生と園児による交流活動
ことばさがしゲーム、やきいもグーチャーパー
歌唱「校歌」、「さんぽ」
教室案内、メダルのプレゼント
(スタートカリキュラムにつながる活動)



④ ふりかえり

交流会では、スタートカリキュラムで取り入れている挨拶の仕方など相手に合わせるコミュニケーション、1年生で学習する内容を取り入れたあそびを体験できるプログラムにした。ことばさがしゲームでは、日ごろ取り組んでいるひらがなの学習が生かされたと感じた(幼稚園)とのことだった。保育園からは、小学生が描いた絵を見たことで新しい言葉やその言葉のイメージをひろげられ、ひらがなに対する興味関心が高まった園児もいたとのフィードバックがあった。さらに、保育園の保護者から、「入学に対して安心につながった」との話も上がっていたとのことだった。入学後の学びや環境を経験したことで、園児、教職員ともにスタートカリキュラムを経験し、園児も保護者も入学に対する期待が高まったことは今後につながる成果となった。

1年生は園との交流に対して前向きにとらえ、学んできたことを生かしたり、周りとのコミュニケーションをとりながら準備を進めたりしていた。交流会当日は、1年生が教室案内や言葉遊びのサポートをすることにより相手意識が高まっていた。次第に自然な笑顔が見られ、自ら関わり合う子どもたちの姿が見受けられ、園児も1年生も楽しく活動しながら関わり合うよさを実感することができていた。そのよさを接続期に体験できたことは、今後の学校の教育活動にも大きな意味合いをもつと思う。

社会の変化が著しく教育活動の見直しが求められる中で、限られた機会を有効に活用し、実りある幼保小の交流活動を実現していくことも重要になると感じている。そのためには、目的を明確にした活動をつくりあげていくことが今後の交流のあり方になっていくと感じた。

瀬谷第二小ブロック

① 交流園

しらゆり幼稚園、下瀬谷保育園、瀬谷中央保育園、瀬谷第二保育園

② 交流のねらい

本校での様子を伝える交流を通して、入学予定の園児たちが安心して学校に通えるようにしたい。

また、本校児童もこの交流を通して、自分たちが1つ上の学年に上がることを自覚し自己有用感を育んだり、色々なことを優しく伝えたいと思いやりの心を持ってたりすることに繋げたい。

③ 活動の様子

○職員連携

- ・情報交換・保育参観

安心して入学できるよう小学校側も準備が必要になる。そのためには、園児の様子や園の保育指針を知ること重要だと考え、今年度は教職員が各交流園に訪問をして参観する時間と職員が話をする機会を設けた。

○子どもたちの交流

- ・1年生による「ぐんぐん あきまつり」への招待
- 小学校生活科にて、秋の木の実を使ったゲームコーナーやアクセサリー・人形作り体験コーナー、楽器・こま体験などを用意し、そこに交流園の子を招待した。
- ・冬に学校体験・見学



ぐんぐんあきまつり
の様子

④ ふりかえり

<職員にとって>

短い時間ではあったが、見通しのもてる掲示物や指示、園児のできる範囲の広さなど、今までの想像との違いに気付くことができるいい機会となった。また、幼保小担当だけでなく、全職員に声掛けをしたことで、幼稚園や保育園に今まで関わっていなかった職員も知る機会を得ることができた。

<子どもたちにとって>

自分たちで計画や準備をする中で、1年生は自分より下の子たちに喜んでもらいたいと自己有用感を育む姿が見られた。また、交流の中では「友達ができた」「また会いたい」などの声が聞こえた。園児の様子も笑顔で互いに楽しむ姿から、園児にとっても小学校の学習や学習施設を知る重要な機会となった。

<次年度に向けて>

今年度は交流が復活したことで、実際に学校に来てもらい子ども達同士で関わる事ができた。直接関わると、そこでしか知ることができない様子も見られ、園児にとっては安心感に繋がる。ただ、かけはし期のねらいである学びの連携というところよりも交流することに重きをおいてしまったので、次年度はそこも意識した交流にしたい。

瀬谷さくら小ブロック

① 交流圏

関東幼稚園

② 交流のねらい

子どもたちにとって、大きな節目である小学校入学に向けて、子どもたちが安心して学校生活を迎えることができるように、また、のびのびと楽しく学んでいくために、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを工夫して取り入れている。それぞれの取り組みをお互いがより詳しく知ること、見直しや改善を行い、子どもたちのスムーズな接続と安心につなげたいと考えた。

③ 活動の様子

○職員連携

- ・年間計画を立て、子どもの学びを共有する。
情報交換・研修会・保育参観・授業参観
- ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し

○子どもたちの交流



④ ふりかえり

〈子どもたちにとって〉

今年度はコロナ禍が明け、実際に子どもたち同士が顔を合わせて交流する機会ももてた。そのため、小学生は実際の年長児と触れ合うことで、自分たちの成長を実感することができた。また、年長児にとっても、園に来てもらう→公園で出会う→学校に訪問すると段階を踏んで小学生と触れ合うことで、小学校生活への期待を高めたり、憧れの気持ちをもったりすることができた。

〈職員にとって〉

園と学校の職員同士で、年間を通して子どもたちの人間関係などについて話をする機会ももてたことで、よりよい学級運営に生かすことができた。園での育ちの様子を伺いながら、授業や運動会での演技、入学説明会の内容を検討できた。

〈次年度に向けて〉

交流の3年目になるので、次年度は学びの連携を意識した春先からの継続的な交流を進めていきたい。